



復興支援のためのプレイバックシアター

小森亜紀
劇団プレイバックーズ



2011年3月11日の東日本大震災発生から数年間、劇団プレイバックーズでは復興支援のためのプレイバックシアターを実施した。日本中に大きな影響を及ぼしたこの震災で、東北地方の被害は甚大だった。プレイバックーズではその理念のもと、プレイバックシアターを用いて可能な貢献をしたいと考えた。劇団の拠点である神奈川から離れた被災地で、参加者にとって安全で意味のある場を提供するためには、通常の公演とは異なる準備が必要であった。その実施の過程を報告する。

実施までの準備

状況が整うのを待つ 地震、津波、原発事故などの被害によって、ライフラインが断たれていたり、生命がおびやかされるような危険がある状態では、プレイバックシアターを実施することが難しい。生活するための環境がある程度落ち着き、人々が語る、見ることができる時期まで待った。

支援者となつたり理解を深める 状況が整うのを待ちつつ、被災地とのつながりを持っていたり、現地に住むプレイバックシアターの理解者を探し、現地の団体や人々との調整役になっていただいた。劇団員は被災地の状況や人々について、公演を行うために必要な理解を深めるよう努力した。

資金の準備 東北までの交通費、宿泊費などの公演費用をまかなうためのチャリティ公演実施したり、寄付を集めた。2011年にドイツでのプレイバックシアター世界大会があり、世界各国のプレイバックシアター仲間からも支援金をいただいた。

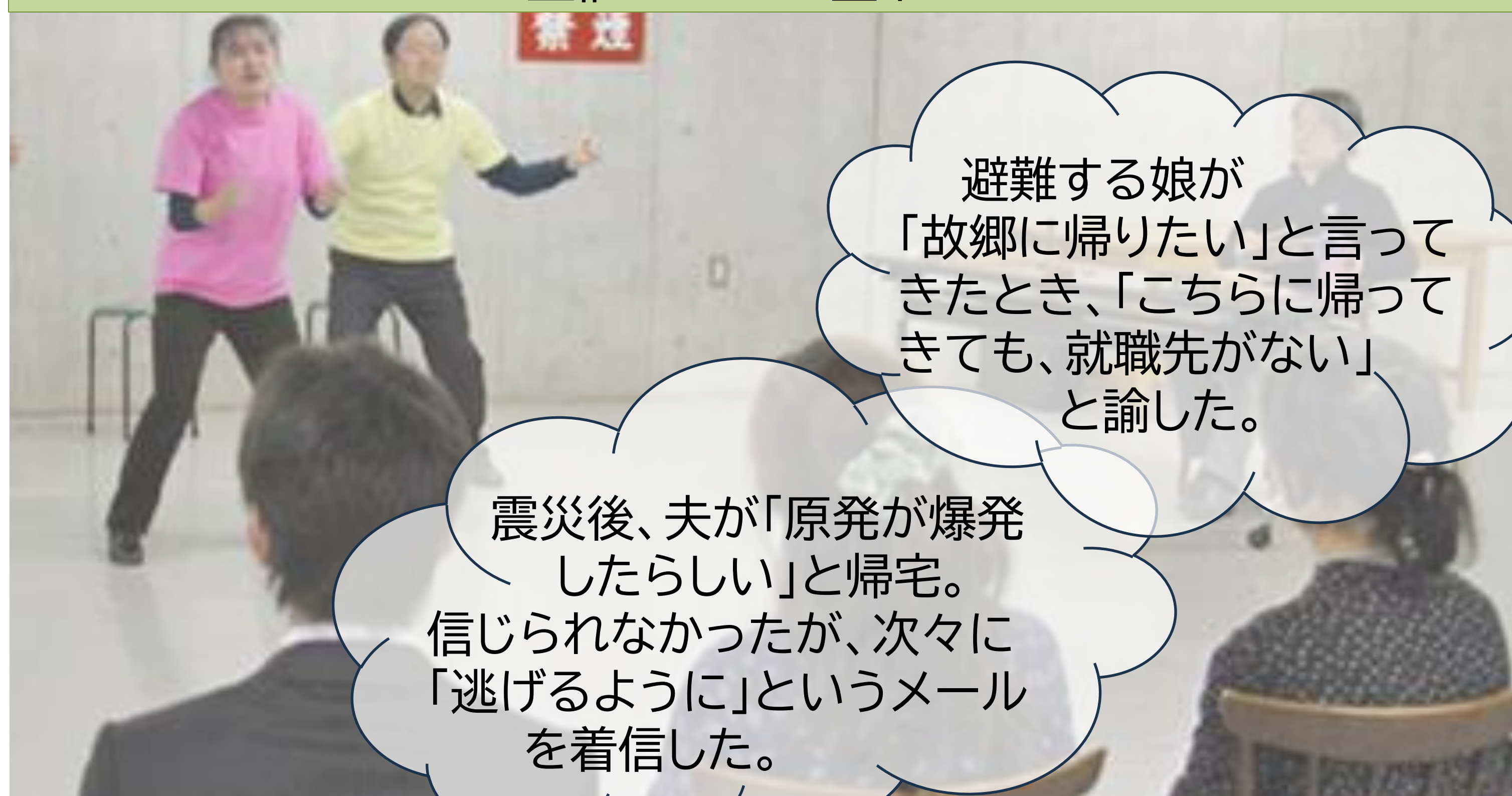
実践とストーリー

東京 避難世帯の方の交流会にて

2012年9月、10月、11月、12月、2013年2月、3月

参加者：原発からの避難世帯の方、ボランティア、スタッフ

主催：きらきら星ネット

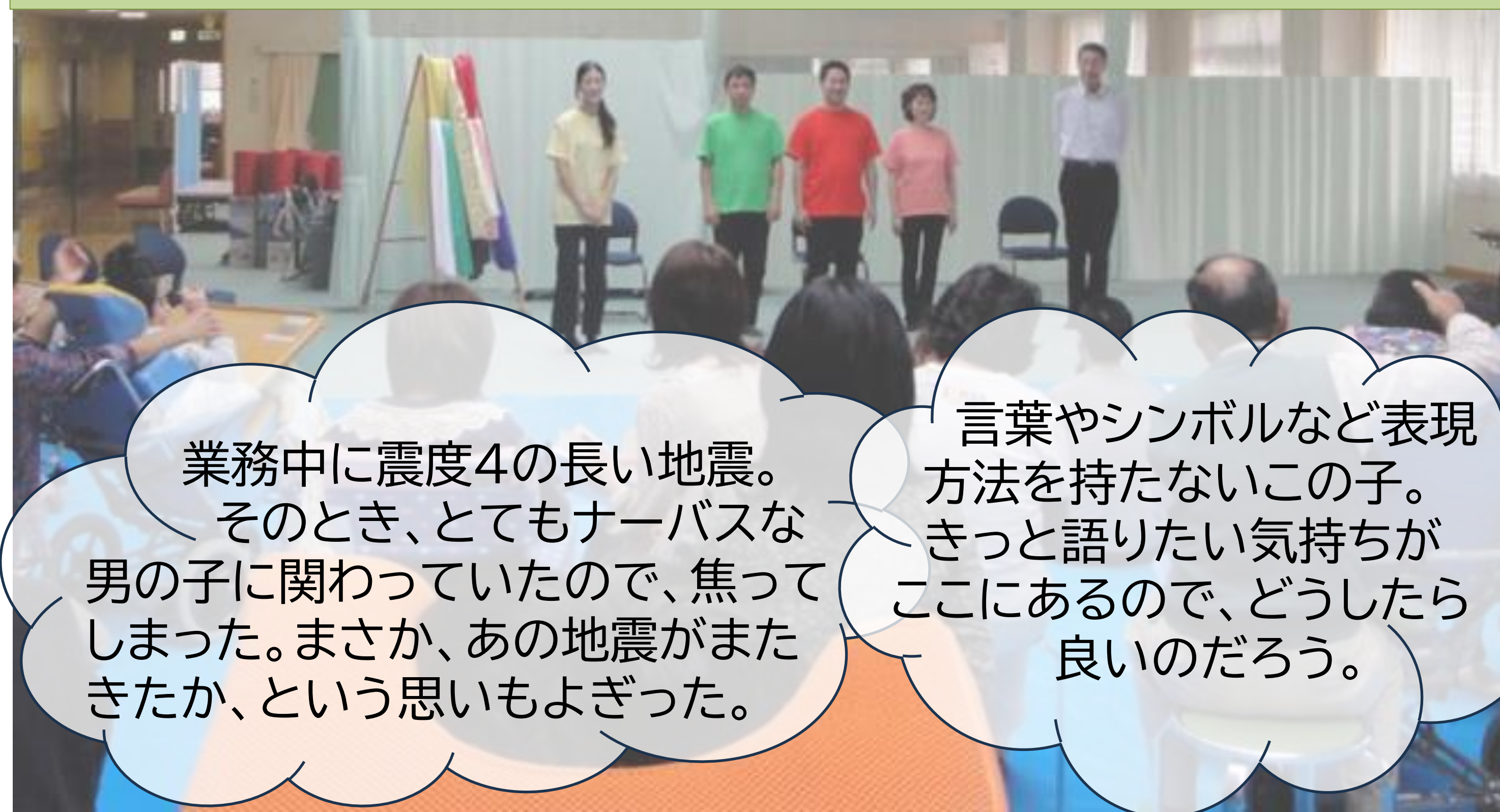


福島県いわき市 障害児者のための施設にて

2012年1月、10月、2013年3月

参加者：入院、外来の方、家族、スタッフ

協力：福島整肢療護園

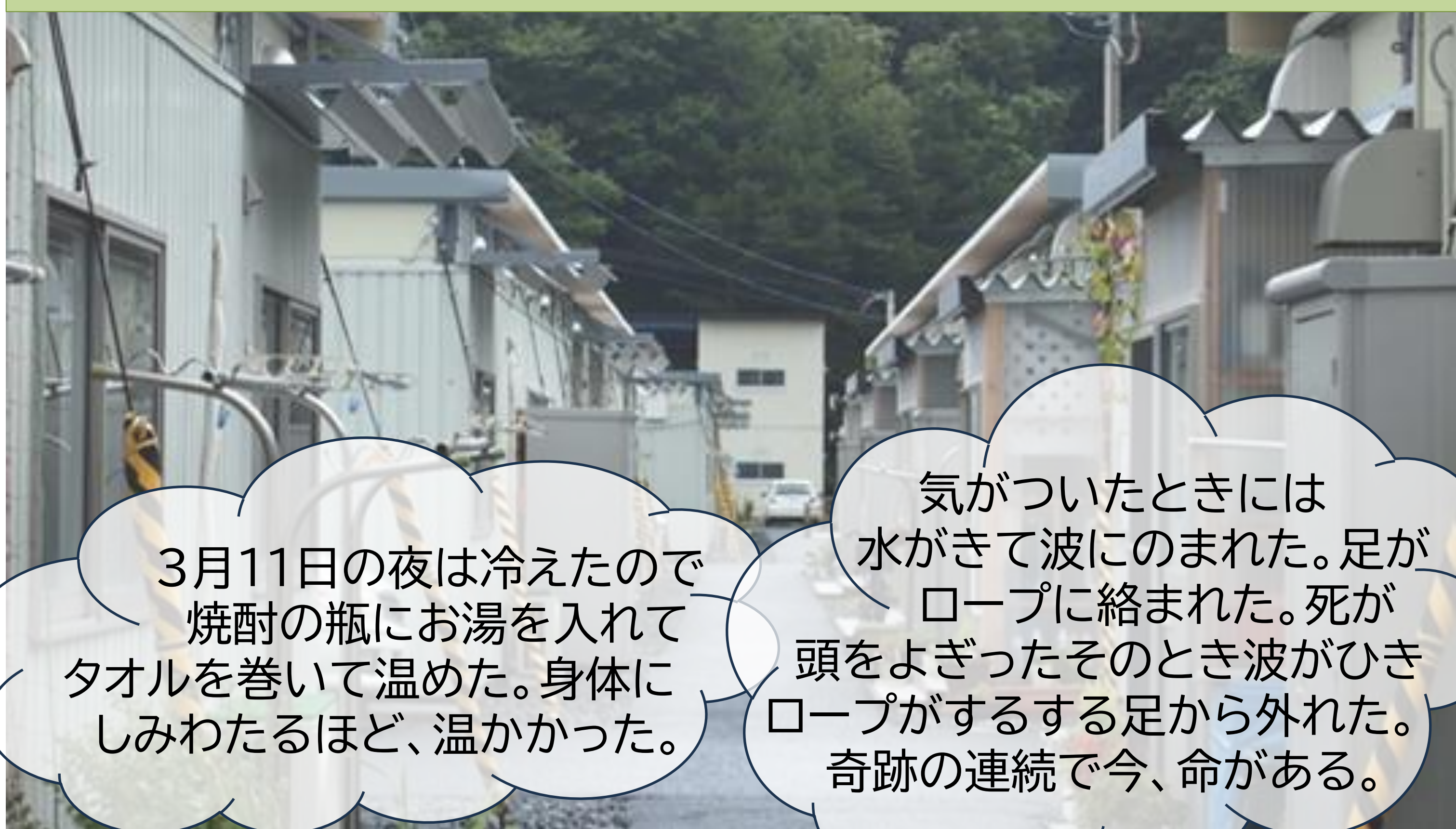


岩手県釜石市 仮設住宅にて

2012年6月、10月、11月

参加者：仮設住宅に住む被災者、ボランティア、スタッフ

共催：仙台教区サポートセンター

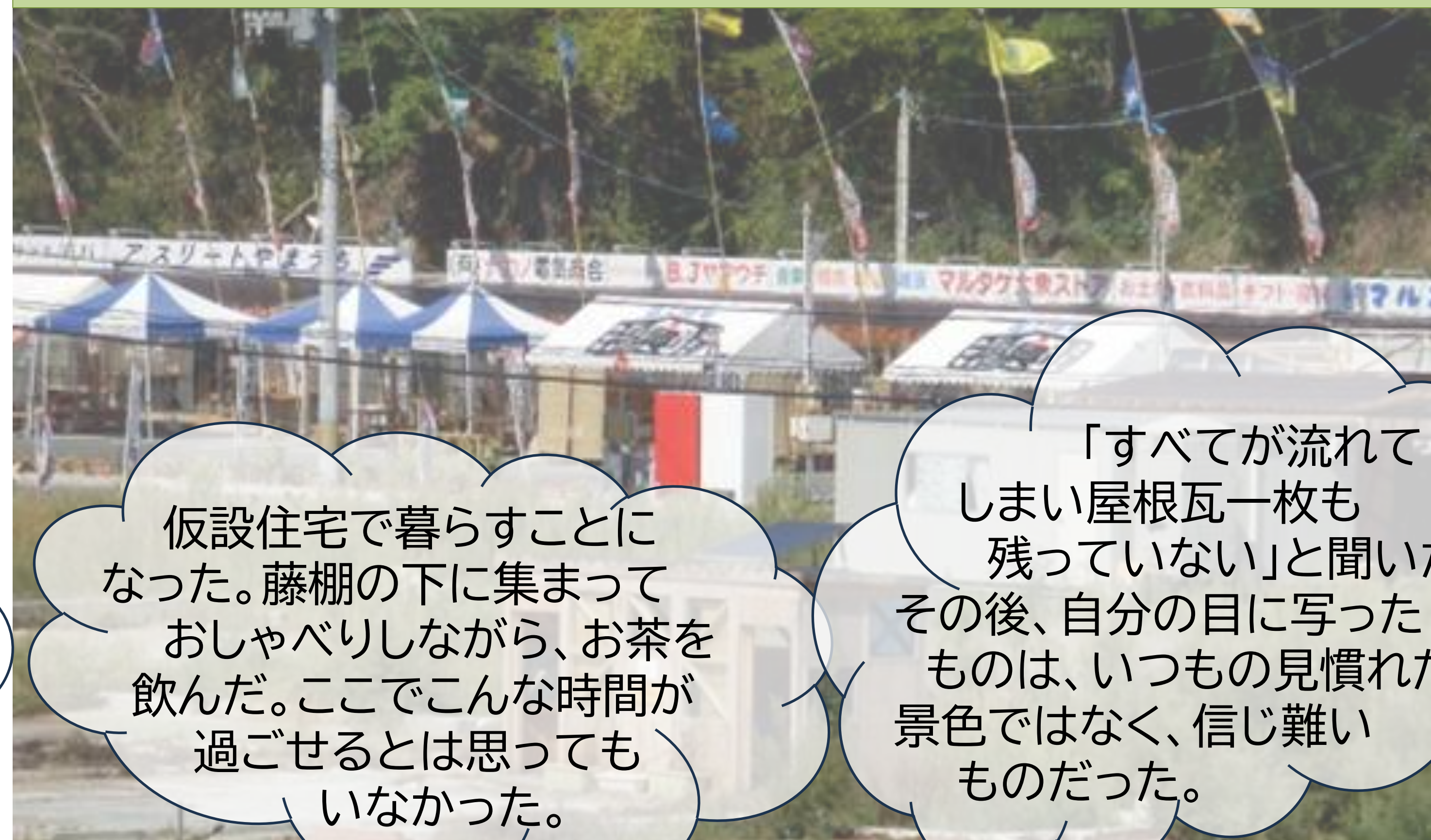


宮城県南三陸市 仮設住宅にて

2012年9月

参加者：仮設住宅に住む被災者

協力：一般社団法人 よみがえれ南三陸



実施時の工夫

- 被災地の状況を知るため、現地の視察を実施して公演にのぞんだ。
- 被災者の体験の大きさを考慮すると、それを体現することは劇団員にとって非常に難易度の高いことと想定された。そのため、始めは現地のボランティア、スタッフに対しての公演を実施し、その後、避難をしてきた人や、現地の被災者に向けての公演へと進めた。
- 実施の前にストレッチや気軽な思い出を話す時間をつくったり、実施後に小グループで感想を言う時間をつくり気持ちを整えられるよう工夫した。

参加者の声

- 震災に対しわだかまっていた気持ちが表現されることで、あるべきところへ、ストンと落ちていったような気がする。
- 体の震えがとまらなくなった。震災のときの記憶が蘇り、涙があふれてきた。
- 家も職も、何も失っていないので「ヒサイ地」、「ヒサイ者」と言われたくないと思っていたが、気持ちの面ではがんばっていたのだな、がんばらなくても良いのだ、と思った。